



新年明けましておめでとうございます。

皆様方にはお変わりなくご健勝に一年をお過ごしになれたと拝察し、お慶び申し上げます。

特別養護老人ホーム「川口結いの家」も、入居者のみなさまの生活と命を平穩無事にお守りしてお正月を迎える事ができ、スタッフ一同嬉しく思い、同時に御支援いただいている多くの皆様に感謝申し上げます。

日本は世界に類をみないスピードで超高齢化社会につき進んでいます。3人に1人が65歳以上という社会がすぐそこまで来ています。それに反する事象として、出生率は低いままです。結婚した夫婦から生まれる子供達の数が少ない事もありますが、結婚しない男女が何と多くなった事かと老婆心がうづきます。人口が1億人を切るのもそんな先の事ではないと予測されています。若者や働き手が減少し、介護の必要な高齢者や認知症の方々が増えた社会にあって、私達の生活はどの様に変容していくのか一抹の不安がよぎります。

現実的には、昭和20年代前半に産まれたいわゆる団塊の世代が、後期高齢者に仲間入りする2025年がそのピークになります。東京オリンピック開催の年の5年後です。私もその時生きていれば80歳を越えていますので他人事ではありません。要介護状態になっているかもしれませんし、これはどなたにも言える平等な予測です。

その様な社会の変化を見据えて、国は地域包括ケアシステムを展開中です。碧南市でもその政策にそって色々な事業を企画実施されています。システムの実態は、要介護状態になっても病院や施設に入院入所するのではなく、住み慣れた生活の中で療養し、穏やかな最期を迎えるというもので、そのために、医療、介護、福祉に携わるプロ集団がチームを組んで生活の支援をし、最期の時は家でその時を迎える、そんなプロジェクトなのです。住み慣れた生活の中で、家族に囲まれて最期を迎えるといえば、老齢期に入った者の心境としては心安まる望ましい姿に写りますが、現実はなかなかその様にいかないだろうと推測されています。今の日本にはそんな老齢社会を阻むいくつもの負の現実があるからです。

「川口結いの家」は、設立当初から入居者の方々にとって「もう一つの我が家」でありたいと努力してきました。住み慣れた家には及ばないまでも、今までその方が過してしてこられた生活を引き受け継続しながら、アットホームな介護を求めてきました。これはなかなか難しい事ではありますが、入居されている方々の生活の個別性を大切にしたい気持ちを介護に込めようと考えていたからです。今年も「その人らしさ」を大切にしたい介護を現場スタッフは実践していきます。そのためには、家族の方々の来訪、施設の開放など、この施設を支えていただいている皆様の御協力、御支援が是非必要になります。そう願いながら今年も川口結いの家は成長してゆきたいと願っています。

皆様にとってよき年であります事を祈念しております。

理事長 堀尾 静



### 「ホームページリニューアル」

理念と概要、サービスのご案内、アクセス、お問い合わせ、広報誌、採用状況などの情報を見やすく、わかりやすくしました。スマートフォン対応にもなっていますので、お気軽にご覧いただければと思います。

また、今回新たな試みとして「スタッフブログ」をはじめました。週1回程のペースですが、川口結いの家のできごとを中心に「私たちの介護に対する想い」「介護の魅力」を発信していきたいと考えています。

ぜひ、多くの方にご紹介していただき、「川口結いの家」のことを知っていただければと思います。

文責：齋藤健、飯嶋進哉



よいしょっ!



毎年恒例の「もちつき大会」を12月18、19、21、22日の4日間で開催しました。  
「高齢者の方にお餅は危険」という認識をふまえたうえで、「おいしく、楽しく、安全に」実施できる「もちつき大会」をもちつき執行部が中心となって企画、開催を続けています。  
つきたてのお餅を「おいしいよ」と言いながら喜んで食べている姿を見ると、本当にうれしく思います。今年も大盛況のもちつき大会でした。これで、平成28年も良い年になりそうです。



杵を振り上げると、みなさんの「よいしょ〜っ！」の掛け声と手を打つ音がリズムよく響きます。たくさんの方が力を合わせてついたお餅はやわらかく、よく伸びてとてもおいしかったです。  
今年の餅つき執行部長は、茄子通りリーダーの新実さんです。女性ですが他の男性職員よりも力強く餅をついていました。頼りになりますね。

主任プリセプター 浅田寛子



よいしょっ!

## 川口ふれあいウォーキング



平成27年11月22日に毎年恒例の川口町町内行事「川口ふれあいウォーキング」に参加させていただきました。  
当日は好天に恵まれ、町内会の方にも温かく迎えられ、笑顔の絶えないウォーキングとなりました。ご参加いただきましたご入居者様、ご家族様の中にはご夫婦で参加されている方もいました。まさに「いい夫婦(11月22日)」の日になりました。  
今後も町内の行事に積極的に参加していきたいと思っております。

GH管理者 生田 幸童



## 感染対策委員会報告

高齢者介護施設は、感染症に対する抵抗力の弱い高齢者が生活する場であるため、感染症対策が非常に重要です。そのため、当施設も感染対策委員会を中心にマニュアルを作成し対策をとっています。  
今回「介護現場における無駄な感染予防」をテーマにした外部研修に参加しました。そこで、学んだことをふまえて、当施設での感染対策の見直しを行いました。  
まず1つ目は、「効果的な消毒方法」についてです。消毒は、広範囲に一律に散布する必要はなく、常日頃の掃除、汚染のふき取りが大切です。たとえば、汚れた手にアルコール消毒をしても効果はありません。しっかりと石鹸と流水で洗い流し乾燥させることが重要です。手が荒れていると、手洗いしても菌数が減少しないため、日頃から手荒れ予防が必要です。  
2つ目は、「加湿器の管理」です。加湿器は、定期的な掃除を行うとともに給水タンクの水を空にして乾燥させます。水がタンクに残っていると、菌が繁殖してしまい、加湿時に舞ってしまいます。そのため、当施設では夜間帯に加湿器の掃除乾燥をおこない、湿度に応じて換気を実施しています。  
寒くなりインフルエンザ、ノロウイルスなど猛威が心配されます。今後も職員の標準予防対策を徹底するように委員会を中心に活動していきます。

看護師 山口由香